

作品講評【応募資格1】

※審査員特別賞は審査員を代表してイツキ氏に講評いただきました。

賞	受賞者氏名	作品名	審査員講評	
グランプリ	吉田咲和 さん	kindness	Oguro Takuya 氏	絶妙な配色センスと美しいグラデーションを作り出せる画力、どちらも一際輝いていました。 キラキラした表面的な側面と、この絵が内包する、自分を怪物に例え醜い存在だと自責してしまうような、暗い側面が共存している絵は、思春期という大人と子供の狭間で、日々に強く刺激を受けている、あなただからこそ描ける素晴らしい絵だと私は思いました。
			イツキ 氏	圧倒的な表現力で自身を怪物として捉える一方、周囲を思う作者の優しく温かい心を強く感じました。多彩な色彩で「醜さ」を美しくまとめ、孤立した怪物が深い孤独感を際立たせています。カタツムリを見つめる怪物の表情がとっても可愛くて素敵です！
			ピカタ 氏	アナログならではのグラデーションの美しさがピカピカと光り輝いていました。 グラデーションいいよね、たのしいよね！
			おにぎりまん 氏	中央の怪物は色鮮やかに表現されている一方で、その周囲に大きな余白を載せることで視線が釘付けになりました。自分自身を怪物と捉えつつもそうした自分をさらけ出して見てもらうことで人々を癒したいという優しい気持ちがこの怪物と余白を生み出しのではないかと想像しながら楽しんで鑑賞させていただきました。
			Sen 氏	数ある作品で一際目立った作品だと思いました。目から耳にかけてのデザインがいい意味で不気味です。なかなか出そうと思って出せる表現力ではないなと感じました。一見不気味だけれどどこか優しいような味のある絵。すごく魅力的な作品でした。
			CRYBORG 氏	余白が白く描いてあるけれど、あたしにはこの子の周りに見渡す限りの暗闇が広がっているのが見えました。この世において暗闇は決して黒などの暗い色だけで表現出来るものではないとあたしは思っています。眩しすぎる何かを見て視界が奪われ、自分の立ち位置が分からず不安になってしまえば、心はいつだって闇に引き戻されてしまうのだから。誰もそんな事を言ってくれないけど、それがこの世の常です。そしてそれに気づいてしまった時、その状況に陥ってしまった原因が自分が生きてる事だと気づいてしまいその醜さを自ら責め、負のループに陥ってしまう事も生きてるとあるものです。そこに陥らず、ここに絵を出してくれて、ありったけの光と共に叫んでくれてありがとう、と悔しいぐらいに思いました。あたしは、あなたの心がきっと、二個目の太陽よりも熱いものだとか確信しています。
準グランプリ	廣本早良 さん	未来の自分へ	Oguro Takuya 氏	絵の技術的な観点で私が特に目を引いた点は、髪の毛の描写の細かさです。白の中に、殻の中の黄色や、足元の植物の緑、様々な色を髪の毛に使うことでポイントとなり、単調な印象を受けることのない仕上がりになっていて素直に美しいと思いました。 あなたがいう通り、今見て、触れて、学んで、様々な刺激を受けることで感性は磨かれると思います。一見関係ないと思えることが、作家活動に生きてくることが本当に私自身多いなと感じてます。無駄なことは本当に一つもないです。お互い、1秒1秒を大切に過ごしていきたいですね。
			イツキ 氏	人物と小物のクオリティが高く、特に顔へのこだわりを感じます。「殻を破りたい」という想いを卵というモチーフに落とし込んでいるのが見事にマッチしていて最高です！
			ピカタ 氏	きっと思っている以上に未来は色々なことがあるけれど、殻を破った先は光り輝いていると信じたいという強さを感じた作品でした。 私も殻を破りたいです。
			おにぎりまん 氏	応募部門1のアナログ部門の応募作品の中で唯一媒体にキャンバスを使用した作品でした。紙より難易度が高い媒体ですが、その難易度を乗り越え色鮮やかな着色でエネルギッシュなテーマを表現していて好きな作品です。
			Sen 氏	アナログながら上手く繊細さが組み合わさった作品だと感じました。手をこちらに向けての遠近感を構図として出しているのも作品として奥行きがでていてとてもいいなと感じました。殻を破ってさらに羽ばたこうという強いメッセージも素晴らしいと思いました。
			CRYBORG 氏	神社にもおみくじなんてものがあるけれど、卵というのはそれよりも身近な運試しのようなものだと思います。とびきり美味しい黄身が出てくる時もあれば、もしかしたら二個も三個も黄身が入ってるかもしれない。ひょっとすると黄身の色が変色して違う色になっているかもしれないし、もしかしたら鳥の赤ちゃんがそのまま眠ってたなんて事も何かの偶然であるかもしれません。そして、卵というのは人間と凄く似ています。殻で他者を拒絶する事も出来るけれど、その殻を打ち破り翼を生やして飛び立つ事もできれば、その殻を舟の代わりにして水辺を進む事だって出来る。あなたが絵の具やゲーム、本などの身近なもののから意味を見出し、キャンバスにありったけの気持ちを詰めたこの作品は、きっとこの画面上で絵の具が混ざり合った時の色の層と同じくらい可能性が詰まっていますね。
審査員特別賞	滝田陽菜 さん	私の夢	イツキ 氏	第一印象のインパクトが特に強い作品でした。 鮮やかな色彩と大胆な小物の配置により、将来の夢に対する強い想いがひしひしと伝わってきます。蝶が花粉を運ぶ様子がインターネットの比喩だと知った時は、「その発想があったか！」と驚きました。Tシャツに好きなお寿司を描くという自由な感じもとても好きです。 これからも柔軟な発想を活かして「誰もが知るようなイラストレーターになりたい」という夢に突き進んでいただきたいです。一緒に頑張りましょう！